

# ザ・ジャーナル!!

Vol.4  
**I**

“やさしさ便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail [info@okayama3.hosp.go.jp](mailto:info@okayama3.hosp.go.jp)

## CONTENTS

*This is our hospital* ● 新任職員紹介 ————— 2～3

● 伊福町宿舎完成 ● 地域医療連携室新体制 ————— 3

● 開院記念日特集 ————— 4

ジャストナウ ● **代謝内科、フットケアユニット** ————— 5

シリーズ ● 岡山医療センター物語 第13話「ターニングポイント ～祖父の死を通して」 ————— 6

● 新人看護師教育 ————— 7

● リソースナース室通信 ————— 7

● 病院活動案内 ————— 8



写真 ● 人体模型を用いた新人看護師研修 (2009.5)

### 地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院

#### 岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院 — をめざして —  
—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

# This is our hospital!

センター  
TOPICS



## 新任職員紹介



皮膚科医長 山崎 修

皮膚科医長として毎日楽しく働かせていただいております。専門は皮膚細菌感染症や皮膚悪性腫瘍ですが、先代の専門の膠原病や皮膚アレルギーも引き継ぎながら、皮膚科全般を幅広くこなす普通の皮膚科をめざします。現在レジデントと2人体制で

すが、研修医や非常勤で皮膚科を勉強していただいている人が多く、教育にも力をいれていきます。

病院全体から考えると、どうがんばっても皮膚科は微力ではありますが、他科の患者さまの皮膚症状をサポートし、皮膚科の存在感を示していきたいと思ひます。患者やスタッフの皆様から“あそこの皮膚科はいいよ”と言われるようにがんばっていきます。どうぞよろしくお願ひいたします。



新生児科医長 影山 操

前任の吉尾医長の聖マリンアンナ医科大学教授就任に伴い、4月から医長をさせていただくことになりました。ここ数年は超低出生体重児（出生体重1000g未満）の生存率は95%以上を保持できており、短期予後ではトップレベルのNICUに成長していますが、さらに重要なのは長期神経学的予後や身体発

育であり、尚一層の医療の質向上が必要です。ファミリーケアにも重点をおき、医療・看護スタッフ全員で真のBaby Friendly Hospital (BFH)を目指したいと思ひます。

また、産科医だけでなく新生児科医の医師不足も深刻な問題であり、日本の周産期医療を更に発展させるためには若い世代の医師確保が急務です。微力ながらこの点にも力を注ぎたいと考えております。



事務部長 要田 貴弘

4月1日付けで馬場事務部長の後任として着任いたしました。私は、平成16年4月から18年8月まで南岡山医療センターに勤務していましたが、その当でも当院の印象として、急性期医療、成育医療を担い大変活発な病院という印象を持っておりました。その後も当院は、地域医療支援病院、そして昨年には

地域がん診療連携拠点病院と、益々、地域における中核施設として重要な役割を担う病院に発展しています。この当院に、私自身が仲間の一員として加えていただくこととなり、改めて身の引き締まる思ひです。当院の理念である患者さま、職員そして地域の方々にやさしい病院を目指し、病院運営に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。



放射線技師長 棕 泰憲

4月1日付けで、湯浅技師長の後任として浜田医療センターからまいりました。棕 泰憲（むくやすのり）ともうします。管内いちの病院で皆様のやる気と熱気を今まで以上に感じました。このような環境で働けることを誇りに思ひ自分自身も身の引き締まる思ひが致します。

忙しい中、今まで味わった事のないイベントも多く地域の人たちと職員との交流も盛んで感心しています。

放射線科の今年の目標は「いつでも笑顔でスマイル出勤スマイル退社」を目標にしています。非常に難しい社会情勢と病院環境ですが楽しくチームワークを大切に少しでも病院の運営に貢献していきたいと思ひています。放射線科に気軽に遊びに来てください、待っています。



臨床検査技師長 榎本 泰明

関門・岩国・呉・そしてこの度の岡山転勤で6施設目、技師長歴としては5施設目となります。出身は広島市ですが私の祖先は津山城に仕えておいて、代々のお墓もこの津山の地にあり、今回の転勤には感慨深いものがあります。臨床検査部門に於いて病院理

念を全うするためには何が重要であるかと考えますと、臨床サイドや患者様に信頼され、高品質で付加価値のある検査結果を素早く返却することですので、職員皆様のご指導と忌憚のないご意見を戴ければ幸いです。なお、私の特技は「体力・気力・記憶力」ですので20歳代!のフットワークを駆使して頑張る所存です。

## 新任Dr紹介

昨年12月以降新しく着任したDrの紹介です



新生児科医師 山邊 陽子

平成6年卒。小児科へ入局後、小児循環器を専門に診療しております。平成15年から2年間、当院新生児科に勤務していましたが、この4月に3年半ぶりに戻ってまいりました。岡山の子どもたちが元気に過ごせるよう、また新たな気持ちでがんばります。今後とも宜しくお願いいたします。



外科医師 秋山 一郎

平成7年卒。岡山大学腫瘍・胸部外科に入局後、当院での初期研修を経て、南松山病院、四国がんセンター、岡山労災病院などに勤務。主に消化器外科や乳腺・甲状腺外科の治療に携わってきました。宜しくお願い致します。

写真は希望により掲載いたしません。



産科・婦人科医師 立石 洋子

H8卒です。産婦人科の中でも主に周産期を中心に取り組んできました。岡山医療センターでも、微力ながら、少しでも患者さんに満足していただけるようがんばりたいと思います。よろしくお祈りします。



麻酔科医師 小野 剛

17年ぶりに勤務させていただくことになりました麻酔科の小野です。南方の旧病院で医師としての基礎を学ばせていただきましたが、今回は少しでもそのご恩返しができればと思っております。どうぞよろしくお祈りします。



麻酔科医師 清水 啓子

平成9年卒です。岡山大学病院、岡山日赤病院、香川県立中央病院、心臓病センター榊原病院などを経て、本年4月より当院麻酔科に配属となりました。患者様に安全で安心な麻酔を行えるよう努力していく所存です。どうぞよろしくお祈りいたします。

## 新しい職員宿舎が完成しました! 庶務班長 村上 孝次

旧伊福町宿舎1号棟～3号棟を取り壊し、同地に新しい宿舎が完成しました。取り壊しに伴う職員の移転、遺跡調査とたくさんの困難がありましたが、3月19日に竣工し4月より入居が始まりました。玄関オートロック、エレベータ2基を備え、独身・単身・世帯用が一つの建物として建築された、宿舎としては非常に珍しい造りとなっています。実際入居が始まると色々な問題も発生していますが、これから入居者同士が協力し合い、快適な生活を維持していきたいと思っています。



## 「地域医療連携室の新体制」

地域医療連携副室長(看護師長) 中務 富美子



地域医療連携室のスタッフが、一部新しくなりました。

副室長:鈴木美智子副看護部長の後任として中務富美子、事務担当の専任として、大西芳明地域医療連携室係長が着任しました。また、退院調整看護師として、峠和美が配属となり、総勢15名となりました。

今後、さらに地域医療機関・在宅機関との連携強化に努めてまいりたいと思います。今まで同様に、ご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

開院記念日特別講演

## 大原美術館学芸課長 柳沢秀行氏を迎えて 『鑑賞は想像・創造』

今年、岡山が誇る大原美術館学芸課長の柳沢氏が芸術に関してのお話してくださいました。

柳沢氏は、まず、大原美術館の成り立ちを話してくださいました。岡山の実業家、大原孫三郎(1880年～1943年)がパトロンとして援助した岡山出身の画家、児島虎二郎(1881年～1929年)がパリへ留学した頃、日本では本物の西洋絵画を一般の人が見ることはできませんでした。西洋美術館というものがなかったのです。児島は大原氏にパリから帰る際に、西洋絵画を買ってもいいか頼んだそうです。児島の再三の要求に大原氏は1年くらいして、やっと承諾し、数点の絵画を買って帰ったそうです。日本に持って帰って、倉敷などで展覧会をしたところ、日本中から西洋の本物の絵画を見に大勢の人が集まったそうです。交通の便も悪い当時、泊まり込みで来る人も多かったそうです。その後、2回、児島はパリへ行き、多くの絵画を買付けました。児島の日本人に本物の西洋絵画を紹介するという、強い熱意に動かされ、当時の画家は、大切にしまっておいた絵を児島に譲ったといひます。モネの睡蓮やマチスの娘の絵は、そうやってはるばると日本に運ばれたのでした。それで、大原美術館の西洋絵画のコレクションが誕生したそうです。ちょうど、関東大震災の前で、輸入関税も安く、数々の奇跡?が重なった結果の素晴らしいコレクションだったとか。児島の死後、その意思を継いで大原氏は大原美術館を1930年に開館しました。その後、大原美術館は、現代絵画、日本の絵画、日本の民芸運動などのコレクションも加え、現在のような形に進化してゆきました。



絵画は、鑑賞する人が、さまざまに想像することによって、新たなことが創造できる。これは、人の感性を育てるうえで、大切なことだと思います。幼稚園、小学校の頃から、絵画、芸術に親しむように、近隣の学校からはもちろん、日本中から修学旅行などの見学ツアーを受け入れています。

岡山の住人なら、今までに何度かこの美術館に行ったことがあると思います。私も、年に1回は行くかな?好きな絵は、ギュスターヴ・モローの神秘的な絵です。今年の4月から岡山にいらっしゃったかたは、一度、倉敷美観地区の大原美術館に足を運ばれたら如何でしょうか?  
「臼井 記」

開院記念日には、毎年10名前後、院長賞が授与されます。ノミネート理由は様々ですが、「頑張った人」に与えられる栄誉ある賞です。今回は受賞者を代表して、感想を述べていただきました。

### 院長賞を受賞して 7A病棟看護師 後藤 宜子

今回受賞で気付いたことですが、頑張ったことはどこかで誰かがそれを見ていてくれているということです。

この賞は、病棟のみんなに協力してもらっての受賞です。辛い事、楽しい事、分かち合ってきたみんなでの受賞です。職種を問わずいろんな人に私は支えられながら、乗り越えてきました。

自分に自信が持てなくなった時、辛くて辞めたいと思った時、立ち止まって周りを見てください。たくさんの方が支えてくれています。そんな人たちがいるこの素晴らしい病院の職員の一人ということを誇りに思ってください。最後に、一番近くで私を励まし、支えてくれた天国へいるお母さんへ、母さんの言う通りだったよ。ここは訪れる全ての人にあたたかい病院ですね。これからも、夢のなかで、私を励ましてね。もっと素敵な病院になるように頑張るから。



これは後藤さんがデザインした感染管理室のワッペンです

### 院長賞を受賞して 裁縫ボランティアのみなさん

この度、思いがけず院長先生より私達の小さなお手伝いが認められありがたく思っています。毎週火曜日にボランティア室で昔、子供の頃、母がしてくれた繕い物などを思い出しながら手先を動かし、ミシンを踏んでいます。今までやって来た洋裁や手芸がここで生かされ役立っている事がうれしく励みにつながって楽しく仕事させていただいています。

この記事を見られた方が、この活動に参加して下さる事を希望しています。



ボランティアの皆さん

# ジヤスト J u s t N o w ナウ

## 糖尿病診療

糖尿病・代謝内科 利根 淳仁

厚生労働省の2007年国民健康栄養調査で、糖尿病が強く疑われる人が890万人、予備軍を含めると2210万人(成人の4.7人に1人)に上ることが報告され、糖尿病患者の激増がわが国の大きな社会問題となっております。当科の糖尿病診療の特長として、医師、コメディカル(看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士)が一体となって協力・連携し、患者様お一人お一人のセルフケアをサポートする「チーム医療」に力を入れています。本稿では、当科の糖尿病診療に対する取り組みについてご紹介いたします。

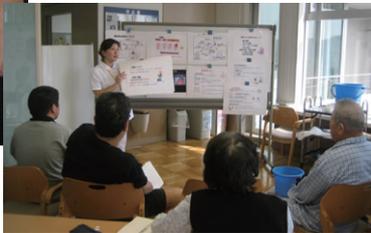
### ■ 糖尿病教育入院

通常2週間コースですが、患者様のご都合に応じて1週間コースも可能です。年間300名以上の方が教育入院され、糖尿病についての正しい知識を効率よく勉強し、食事療法・運動療法の進め方などを習得します。糖尿病療養指導士が中心となって、きめ細かな指導を行います。また、膵臓のインスリン分泌能を詳細に把握し、患者様個々の病態に応じた適切な治療を提案します。糖尿病の合併症についても精査し、必要に応じて合併症に対する治療も行います。

糖尿病教育入院中の患者様を対象に、2009年3月から毎週金曜日はバイキング形式で昼食会を行っています。主食の種類を自分で選び、量を計って取り分ける作業を実際に行うことにより、少しでも退院後の食生活のお役に立つことが出来ればと考えています。



バイキング形式の食事会の様子



実践!フットケア(糖尿病教室)

### ■ 糖尿病教室

2008年10月からメニューを改訂し、より充実した内容の糖尿病教室を行っています。入院中でない方やご家族の方もどうぞご参加ください。参加ご希望の方は、内科外来看護師にお問い合わせ下さい。

- 日時:毎週 月・水・木曜日 午後1時～2時。
- 場所:4階 母子医療指導室
- 料金:無料。ただし、栄養士の講義のみ集団栄養指導料(保険適応)が必要になります。

#### <1週目>

月 A 糖尿病ってどんな病気? (医師) B フットケアについて (看護師)  
水 C 合併症① 細小血管症 (医師) D 糖尿病の食事療法について(栄養士)  
木 E 合併症② 大血管障害 (医師) F 治療① 飲み薬 (薬剤師)

#### <2週目>

月 G 運動療法 (リハビリ科医師、理学療法士)  
水 H オーラルケアと歯周病(歯科衛生士) I 調理の工夫、外食・嗜好品 (栄養士)  
木 J 治療② インスリン(薬剤師) K シックデイについて (看護師)

※スケジュールの詳細は当院HP上に掲載しています。

### ■ 歯周病チェックと口腔ケア

「糖尿病患者では歯周病が重症化する」ことは以前から知られていましたが、最近は「歯周病を治療すると血糖コントロールが改善する」ことが明らかとなり、治療ガイドラインでも歯周病も糖尿病の重大な合併症のひとつであるとの認識が強調されています。このような状況を鑑み、当院では歯科医師、歯科衛生士と協力し、糖尿病教育入院中の患者様ほぼ全員を対象に歯周病チェックとブラッシング指導を行い、歯周病の予防とケアに努めています。

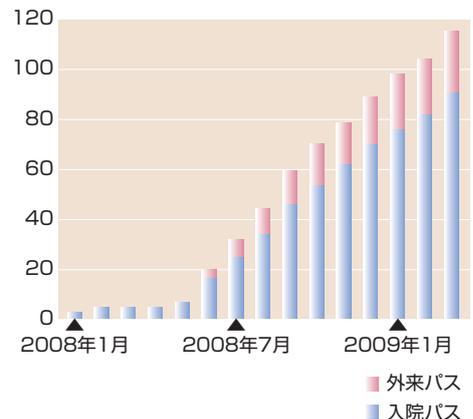
### ■ フットケア・ユニット

糖尿病による神経障害や下肢の血流障害、水虫などが原因となって、糖尿病性足潰瘍・足壊疽に発展する患者様が急増しています。このような状況を踏まえて、当科と皮膚科、形成外科、心臓血管外科、整形外科、フットケア専門研修を受けた糖尿病療養指導士が協力・連携して「フットケア・ユニット」を設立し、糖尿病足病変(diabetic foot)の予防と適切な処置・治療を行っています。2009年6月から「糖尿病フットケア外来」(毎週水曜日午後)を開設予定です。

### ■ 地域医療連携

当科ではかかりつけ医の先生と協力して糖尿病診療を行う「地域医療連携」を推進しています。かかりつけ医の利点と病院の利点をそれぞれ生かして、患者様にメリットのある医療を提供できればと考えております。連携する医療機関が共通の治療計画のもと、「切れ目のない医療」を患者様に提供するため、地域連携診療計画書を用いた連携医療を進めています。

#### 【地域連携診療計画書(地域連携パス)導入患者数の推移】



看護部教育委員会の研修の一つとして、「看護を語る」ということを実践しています。今回はその際に寄せられた作文のひとつをご紹介します。

### ターニングポイント ～祖父の死を通して

看護師 太田 由美子



看護職について今まで多くの患者様を看取ってきた。はじめて配置された病棟は消化器病棟であり癌の患者様が多くおられた。自分の病気をうすうす感じ動けない身体でベッド柵に着物の帯を結び首をくくった方、ベッド柵を曲げてしまうほど苦しみながら逝ってしまった方。当初はそんな死に対し涙し患者様を見送っていた。しかし、だんだん死の場面にも慣れ自分の勤務内に亡くならず次の勤務に送れることにホッとしていた。「待っていたよ、後よろしくね。」「私があたるの?」という会話はこれから人生の幕をひく瀬戸際の患者様に対して、看護師間で何気なく交わしている会話であった。患者様を見送りふっとこのような会話を思い返すとき「こんな感情はおかしい。何か違う。私は冷たい。普通にOLとして働いていれば知らなくてすむことが沢山あるのに何で看護師なんかを選んだのだろう」と落ち込むものの、日々の忙しい業務に流され深く考える余裕もなく過ぎ、いつのまにか死に対して鈍感になっていた。

6年目の頃、祖父が亡くなった。祖父は家で亡くなった。わがままで、いつも「死んで墓に酒はいらん。今飲ませろ」と言うのが口癖だった。そのため亡くなる数日前まで水で薄められた酒をのみ、長年暮らした家で家族のそばで息をひきとった。近所の人達からも「家で死ねておじいさんは幸せ者だ」と言われていた。しかし、皆が家で死を迎えられるわけではない。たまたま母も姉も看護師をしていたため自由と希望を束縛する入院生活は、残り少ない時間の祖父には意味がないと考えて決めたことだった。実際、医療関係者でない父は「本当に病院に行かなくていいのか?」と何度も聞いてきた。それが一般的な考え方であると思う。たいていの家族は、このまま病院に連れて行かなければ死ぬということ自体が怖くなり、本人の「死ぬまで家にいたい」という意思を尊重することは難しく病院に入院する。その方々に自分はどのように接していたのか?祖父に思った感情があったか?そう考えると病院で亡くなる人にその人らしく生きられるよう、手伝いができたらと思えた。そして死はその人の生き様であり、死を迎える瞬間は家族でもない私が看護師だからこそ同席させてもらっていたのだと思えるようになった。

そう考えられるようになった頃、A氏は食道癌の再発・転移で入院してきた。何時も看護師に何かを求めるわ

けでもなく、言葉数少ない穏やかな方だった。徐々に症状が進み、ただベッドの上でのみ過ごすA氏に対し、何かできることがないのかと考えていた。しかし希望をきいても笑っているだけで何も言われることはなかった。ちょうど4月の初めであり、桜が開花し始めていた。まだ手術をする前、A氏との会話の中で自宅に植えてある花の話をしたことが思い出された。早朝に近所にある公園の桜の枝を1本失敬し病室に持っていた。それまで眠っていることの多かったA氏に声をかけて桜の花を見せると、私の腕をつかみ、上半身を起こし自分の目の前に桜の花を引き寄せた。本当によい顔でしばらく桜の花を眺めていた。その光景をみているとA氏を花見に行かせてあげたくなった。看護師、医師とカンファレンスを行ない、家人とも相談し花見に行けるよう計画することとなった。A氏はかなり衰弱してきていたため、家人の予定にあわせステロイドを使用し、体調を合わせていった。病室にも家人が自宅で咲いた花を持参して下さるようになり、お酒の好きだったA氏のために家人に依頼しお酒も持ってきてもらった。しばらくそのお酒は床頭台の上におかれてあった。お猪口も持参して下さっていたので主治医から許可をもらいお酒を開けることにした。もう香りも味もわかりづらくなっていたが、お酒を本人に注ぐと1口飲み、おいしいかとの間に笑顔で顔き、私にも飲むようすすめてくれた。A氏は息子や孫たちと花見に行き良い表情で帰ってきた。息子からも「少しだけ一緒にお酒が飲めました。」と報告を受けた。いつもは『あたるのいやだな』と思っていたが、A氏の最後は『自分が看取りたい』と思えるようになっていた。A氏は3週間後に家人に看取られ亡くなった。

家族の死を体験したことが、人の死から逃げようとしていた自分を振り返る転機となった。そして、その人らしく生きられるよう手助けができればと考えるようになった。そのような中で行なったA氏への看護が良かったのかどうかは自己満足でしかなかったかもしれないが、一歩踏み込んだ関わりになったと思う。そして今でも色々な人と接していく中で後悔したり喜んだり成長させてもらっていると思っている。

## 学ぶ楽しさを支える 新人看護師教育

看護師長(教育担当) 古市 弘子

当院では、毎年約80名の新人看護師を採用しています。21年度も76名の新人看護師が採用されました。

3月に8日間、新人看護師を対象に、新人看護師同士の仲間づくりや岡山医療センターの職員として働く意欲の向上を目的とした入職前研修を実施しました。病棟研修や看護技術研修後のグループワークでは、自分たちの課題や4月からの行動目標が明らかになりました。新人看護師は、この明らかになった課題や行動目標を研修ごとに振り返り、プロフェッショナルとしてなりたい看護師を目指して頑張っています。現在、新人看護師は、白衣の襟にブルーリボンのバッジをつけています。これは、他職種からも理解と協力を得て、病院職員全体で新人看護師を育てようということを目指しています。また、患者様やご家族にもお伝えすることで、新人看護師としての自覚と責任を持った看護実践ができることを目指しています。まだまだ未熟なゆえにご迷惑をおかけすることが多いのですが、患者様やご家族、他職種の職員から「頑張れよ」「素敵な看護師さんになって」などの暖かい言葉を日々の励みにしながら毎日懸命に看護実践をしています。

新人看護師は、看護実践の基礎を形成する重要な時期であり、また組織で働く社会人として前に一步踏み出す力も必要とされる時期でもあります。看護部の目標の一つに「共に学び・共に育つ」があります。新人看護師が、『あの先輩のような看護師になりたい』という目標を見失わないように、先輩看護師や各部署の教育担当看護師・病棟全体・病院全体で支援をしています。新人看護師と日々看護実践を共にしたり、悩みや相談を受けたりするなかで、新人看護師の成長を肌で感じるとともに、自分自身の成長も感じています。



1年目研修「私の実践した看護」発表 意見交換



24時間使用可能な研修センター“スキルアップ・ラボ”にて、気管内挿管介助研修

## リソースナース室通信 ～リソースナース室が立ち上がりました～

感染管理認定看護師 原 清美

岡山医療センターには4分野(緩和ケア、集中ケア、新生児集中ケア、感染管理)、4名の認定看護師がいます。このたび認定看護師・専門看護師が所属する「リソースナース室」を設立することができました。リソースナースとは『常に変化する医療現場の最前線で医療・看護の質向上のために、病院全体または看護部全体へ働きかけ、看護職員個々の看護実践を直接支援する人的資源』いいかえれば、「看護職員のレベルアップのために、いろいろと企画したり、お世話したり、相談にのってあげる、よろず相談員」といったところでしょうか。私たちの活動は、これから、ザ・ジャーナルで紹介していきますが、皆さんの『役に立つリソース』として、幅広く活動を展開していきたいと思っております。



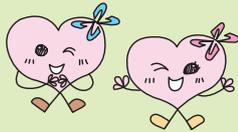
# [病院活動案内]

## 地域医療研修室 セミナー・講演会(6月～7月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日程	種別		演者
6月16日(火)	第90回初期治療セミナー	末梢血管疾患の臨床	当院心臓血管外科 越智 吉樹
7月14日(火)	第28回薬剤師研修会	慢性呼吸器疾患の診療	当院呼吸器科 松尾 潔
7月21日(火)	第91回初期治療セミナー	他科の先生のための耳鼻科の知識	当院耳鼻科 丸中 秀格

### ●「第4回地域医療連携の夕べ開催!!」● 地域医療連携係長 大西 芳明

4月30日(木)、「第4回地域医療連携の夕べ」が、連携医の先生方109名と当院職員(医師、看護部、薬剤科、事務部、地域医療連携室)112名の総勢221名参加のもと、ホテルグランヴィアで盛大に開催されました。来賓祝辞、院長による「当院の1年の歩み」の説明のあと、新任職員の紹介へと順調に進んで参りました。その合間の歓談の時間は、参加者同士の「旧友との交流の場」、「平素より協力関係にある医療機関同士の親睦の場」、「情報交換の場」となっており、初参加である私にも、この会が非常に有意義な会であることが実感されました。ご多忙中にもかかわらず時間を割いてご出席くださった皆様のお蔭で成功裏に会を終えることができました。感謝の気持ちで一杯です。今後も、この会を、地域医療連携活性化の橋渡し役として充実させていきたいと思っております。



## 編集後記



新編集チーム

ザ・ジャーナルは、編集メンバーを一新し、4年目のスタートを切りました。楽天イーグルス・野村監督も4年目にはいって絶好調。虎兇の私も、楽天のゲーム結果を、毎晩チェックせずにはおれません(あやかりたい、あやかりたい!!)。一方、未曾有の経済危機や、新型インフルエンザの世界的蔓延と日本国内での急速な感染拡大など、ニュースから目を離すことができない毎日が続いています。内外ともに喜怒哀楽・波乱に満ちた一年が予感される平成21年度ですが、医療センターを取り巻く「今」を、オモシロくまじめにお伝えし続けたいと思います。

(大森 記)

## ザ・ジャーナル!!

第4巻 第1号

平成21年5月25日発行(年4回発行)  
 編集責任者 大森信彦  
 独立行政法人 国立病院機構  
 岡山医療センター 地域医療連携室  
 広報誌編集チーム  
 〒701-1192 岡山市北区田益1711-1  
 Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255  
 印刷:山陽印刷株